



巻頭言：「温故知新」

日本分類学会会長 山本義郎（東海大学）

この度、2025-26年度の会長を拝命いたしました。40周年という大きな節目を迎えた本学会において、私は1998年に入会し、2005年から約20年にわたり運営に携わってまいりました。この大任を拝受するにあたり、改めて本学会の歩みを会報などの資料で辿り、その原点を見つめ直しております。

本学会は1983年6月「分類の理論と応用に関する研究会」として設立されました。当時の設立趣意書には、「"分類"はあらゆる科学における基本的な思考操作である」という力強い言葉が刻まれています。初代会長の林知己夫先生は、会報第1号の巻頭言において本学会を「学際的学会」と位置づけ、「分類は、科学において、共通の、しかも極めて有力な武器なのである」という言葉で締めくくられました。1991年に「日本分類学会」へと名称を改めて以降も、林先生が説かれた「分類のための分類は空虚である。各分野のものとの共同研究のうちに、新しい方法が開発される」という精神は、本学会の背骨として受け継がれています。この理念は、2012年に創刊された和文誌『データ分析の理論と応用』の誌名にも息づいており、理論と応用が一体となって進む伝統は、データサイエンスが社会インフラとなった現代において、より一層その価値を増しています。

本学会のもう1つの大きな特色は、設立当初から続く国際的な繋がりへの強さです。歴代会長が強調されてきた通り、本学会は「国際研究交流を通じて、わが国における分類研究の進歩発展を図る」ことを重要な目的として掲げてきました。1985年に日・米・英・独・仏・伊の6カ国によって設立された国際分類学会連合(IFCS)においても、本学会は創設メンバーとして中核的な役割を果たし続けています。来年2026年7月にイタリア・ミラノで開催されるIFCS2026では、本学会として久しぶりにInvited Sessionを企画し、日本の分類研究の成果を世界に発信していく所存です。

かつて、学際的な学問は「独自の原理を持っているのか」と問われた時代がありました。しかし、林先生が示された通り、分類学は単なる手法の寄せ集めでは

<目次>

・巻頭言「温故知新」	1
・役員改選	2
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告 大会開催報告	3
シンポジウム開催報告	4
・学会賞・フェローについて 日本分類学会 学会賞およびフェローについて	5
日本分類学会 2025年度 学会賞・フェロー	5
日本分類学会 2025年度 学会賞受賞者より	6
・学会議事録等 2025年度総会議事録	8
評議員会議事録	9
・事務局から	16

なく、現象の背後にある構造を明らかにする「科学の根幹」です。林先生は第1回シンポジウムにおいて、「情報の視覚化」は多次元情報の集約化に関連して極めて重要であるとも述べられていました。上田尚一先生の言葉を借りれば「わかることは、わかること」であり、複雑な事象を整理し、新たな知見を導き出す分類の役割は、AIやビッグデータの時代にこそ再定義されるべきものです。

昨年12月に開催した「日本分類学会設立40周年記念シンポジウム」は、まさにこの精神を体現するものでした。先達の知恵に触れるとともに、最新の研究成果が共有された記念講演は、会員一同にとって極めて意義深い経験となりました。この40年間に先輩諸氏が築き上げられた資産を大切に受け継ぎ、設立時の熱い志を胸に、本学会が「知の交流の場」としてさらに活発な議論が創出される場にしていくことこそが、私に課せられた使命であると考えております。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援と、積極的な研究交流へのご参加を心よりお願い申し上げます。

役員改選

役員改選 2025・2026 年度の役員改選結果報告 会則に従い、2025・2026 年度の役員改選を行いました。2 名の選挙管理委員（清水信夫会員・今田一希会員）により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は 2025 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日までです。

2025・2026 年度役員

会長（敬称略）

山本 義郎（東海大学）

監事（2 名：50 音順、敬称略）

栗原考次（京都女子大学）

水田正弘（統計数理研究所）

評議員（20 名：50 音順、敬称略）

足立浩平（京都女子大学）

阿部寛康（和歌山県立医科大学）

石岡文生（岡山大学）

今泉 忠（多摩大学）

大津起夫（大学入試センター）

岡太彬訓（立教大学）

狩野 裕（同志社大学）

久保田貴文（多摩大学）

酒折文武（中央大学）

佐藤美佳（筑波大学）

竹内光悦（実践女子大学）

谷岡健資（同志社大学）

土田 潤（京都女子大学）

寺田吉壺（大阪大学）

富田 誠（横浜市立大学）

中山厚穂（東京都立大学）

林 篤裕（実践女子大学）

林 邦好（京都女子大学）

宿久 洋（同志社大学）

山本倫生（大阪大学）

横山 暁（青山学院大学）

また、評議員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

2025・2026 年度

幹事長 中山厚穂（東京都立大学）

2025・2026 年度 幹事

阿部寛康（庶務、和歌山県立医科大学）

石岡文生（庶務、岡山大学）

船山貴光（庶務、西武文理大学）

竹内光悦（会計、実践女子大学）

小田牧子（会計、防衛医科大学校）

山田実俊（会計、東海大学）

土田 潤（広報、京都女子大学）

山下直人（広報、関西大学）

豊田裕貴（企画、法政大学）

林 邦好（企画、京都女子大学）

鶴見裕之（企画、横浜国立大学）

佐藤美佳（渉外、筑波大学）

酒折文武（渉外、中央大学）

富田 誠（渉外、横浜市立大学）

久保田貴文（渉外（国際学会活動）、多摩大学）

寺田吉壺（渉外（国際学会活動）、大阪大学）

大津起夫（ジャーナル、大学入試センター）

横山 暁（ジャーナル、青山学院大学）

宿久 洋（IFCS Council、同志社大学）

山本義郎（IFCS Council、東海大学）

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○大会開催報告

■日本分類学会第 44 回大会開催報告

大会実行委員長 中山厚穂（東京都立大学）

日本分類学会第 44 回大会を 2025 年 5 月 31 日（土）、6 月 1 日（日）に函館市地域交流まちづくりセンター（北海道函館市）でハイブリッド開催（現地とオンライン）いたしました。

11 件の一般講演に加え、4 件の学生発表も行われ、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。みなさまのおかげで、大変、有益な大会になったと感じています。

大会実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション I

座長：酒折文武（中央大学）

・感染症患者の電子カルテデータを用いた同時検出細菌の特徴分析 ～抗菌薬選択の最適化をめざして～

窪松大和、山田実俊、今西規、山本義郎（東海大学）

・クラスタ構造をもつ問題を含むテストに対する項目反応理論について

濱中祐人（同志社大学）、岡部格明（名古屋大学／同志社大学）、宿久洋（同志社大学）

・JS-DivE: A Dimensionality Reduction Method to Reveal Latent Cluster Structures

西村拓海、寺田吉壺（大阪大学）

・欠損値を含む観測データに対する頑健な合成コントロール法の提案

山下璃久、谷岡健資、宿久洋（同志社大学）

一般セッション I

座長：森裕一（岡山理科大学）

・学校外教育の累積的利用と教育達成：因果媒介分析による検討

眞田英毅（武庫川女子大学）

・文系学生を対象とした統計学習支援における質問・アクセスデータの活用

竹内光悦（実践女子大学）

一般セッション II

座長：足立浩平（京都女子大学）

・L2 正則化を伴う行列分解型構造方程式モデリング
山下直人（関西大学）

・行列分解因子分析における損失関数の表現

寺田吉孝（大阪大学／理化学研究所）

・量質混在データに対する棒折り過程を用いた直交半非負値行列因子分解

阿部寛康（和歌山県立医科大学）

一般セッション III

座長：中山厚穂（東京都立大学）

・アジア諸国間の国民感情における非対称性の分析

岡太彬訓（立教大学），横山暁（青山学院大学）

・多枝選択項目のための診断分類モデルにおけるノンパラメトリック分類

福島健太郎（大阪大学），岡田謙介（東京大学）

・Group Lassoによる変数選択を伴う非対称多次元尺度構成法

谷岡健資，宿久洋（同志社大学）

一般セッション IV

座長：山本義郎（東海大学）

・加齢による生活習慣病の罹患確率予測の類型化に関する検討

下川敏雄（和歌山県立医科大学）

・品質管理指標及びロジスティックモデルに基づくインデント予測

高部勲（立正大学）

・全国消費実態調査を用いたヴァーチャル世帯の分析
菅幹雄（法政大学），高部勲（立正大学）

○シンポジウム開催報告

■2024 年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 林篤裕（名古屋工業大学）

2024 年度日本分類学会シンポジウムを 2024 年 11 月 30 日（土），12 月 1 日（日）に名古屋工業大学（愛知県名古屋市）でハイブリッド開催（現地とオンライ

ン）いたしました。一般講演 7 件に加えて，学生発表 8 件を 5 セッションに分けて進行し，活発に意見交換が行われたシンポジウムになったと感じております。また，初日夕刻には大学隣接の浩養園（サッポロビール名古屋ビール園）にて懇親会を開催し，参加者間のネットワーク構築にも寄与できたものと確信しております。

本シンポジウムの開催にあたり，ご参加いただきました皆様，ならびにご協力いただきました全ての方々に心より感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション I

座長：今泉忠（多摩大学）

・順序ラベル情報を考慮した Graph-Linked Unified Embedding の提案

小林拓，岡部格明，宿久洋（同志社大学）

・サロゲートモデルを用いた U-NSGA-III の精度改良手法の提案

村上雅海，中西（大野）義典，宿久洋（同志社大学）

・量質混在データに対するグループ間の情報借用を伴う Multiple Group SEM について

竹島大輝（同志社大学），土田潤（京都女子大学），宿久洋（同志社大学）

・Aitchison 幾何による交差分類表の準対称性解析

中村慶太（東京理科大学），中川智之（明星大学／理化学研究所），田畑耕治（東京理科大学）

学生発表セッション II

座長：酒折文武（中央大学）

・無人販売機における利用状況の分析と適切な商品ラインナップの検討

大河内菜月，山本義郎（東海大学）

・重要度重み付き学習を用いた AIT 推定

荒尾沙央莉，原田和治，田栗正隆（東京医科大学）

・エントロピー正則化に基づく Robust Sparse Fuzzy Clusterwise Regression の提案

佐藤丈寛，谷岡健資，廣安知之（同志社大学）

・共通ネットワークを推定するための Robust Unified Graphical Lasso

守屋亮平，谷岡健資，日和悟，廣安知之（同志社大学）

一般セッション I

座長：富田誠（横浜市立大学）

・経路 lasso による共変量選択と平均処置効果の推定
奥田忠久（東京医科大学），吉川剛平（九州大学／株式

会社NTTデータ数理システム)川野秀一(九州大学),
田栗正隆(東京医科大学)

・スパース推定に基づく非線形ダイナミクスのオンライン学習アルゴリズム

宮内優太, 山本倫生(大阪大学/理研AIP/滋賀大学
座長: 前川眞一(東京工業大学)

一般セッション II

座長: 山本義郎(東海大学)

・選抜効果を補正する相関係数の推定法の比較とその応用 —A 大学の入試成績・GPA 間の相関分析—
牧野直道, 桜井裕仁(大学入試センター) 林篤裕(名古屋工業大学), 山村滋(大学入試センター)

・連立方程式解に基づく因子得点の新たな同定法
山下直人(関西大学), 前川眞一(東京工業大学/大学入試センター)

・主クラスター成分分析の導出と心理尺度構成への応用
村上隆(中京大学)

一般セッション III

座長: 栗原考次(京都女子大学)

・QUINT の生存時間への拡張

笹山洋子(和歌山県立医科大学), 谷岡健資(同志社大学), 万可, 下川敏雄(和歌山県立医科大学)

・15歳時に本を持っていることは何を意味するのか:
社会階層論の観点から
眞田英毅(同志社大学)

■日本分類学会 40 周年シンポジウム開催報告

幹事長 中山厚徳(東京都立大学)

日本分類学会は1983年6月に「分類の理論と応用に関する研究会」として発足し、設立から40年を迎えました。この節目を記念し、2025年12月13日(土)に青山学院大学青山キャンパス(東京都渋谷区)にて、40周年シンポジウムをオンサイト・オンラインのハイブリッド形式で開催いたしました。

当日は、3名の演者による記念講演と、3名のパネリストによるパネルディスカッションを行い、日本分類学会の歴史を振り返りつつ、今後の発展のために何が必要かなど、活発な議論が交わされました。

皆様のご協力により、大変有益なシンポジウムとなりましたことを厚く御礼申し上げます。ご参加いただいた皆様、ならびに運営にご尽力いただいたスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

40周年シンポジウムにおけるプログラムは以下の通りです。

日本分類学会 40周年シンポジウム

記念講演

・日本分類学会との40年

岡太彬訓(立教大学)

・分類とAI

佐藤美佳(筑波大学)

・分類はなお科学の基本である —データ×AI×知識の融合時代に向けて—

酒折文武(中央大学)

パネルディスカッション

モデレーター: 山本義郎(東海大学・日本分類学会会長)

パネリスト : 山下直人(関西大学)

土田潤(京都女子大学)

中山厚徳(東京都立大学)

■2025年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 横山 暁(青山学院大学)

2025年度日本分類学会シンポジウムを2025年12月13日(土)、14日(日)に青山学院大学青山キャンパス(東京都渋谷区)で開催いたしました。5件の一般講演に加え、5件の学生発表も行われ、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。みなさまのおかげで、大変、有益なシンポジウムになったと感じています。

シンポジウム実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション

座長: 竹内光悦(実践女子大学)

・混合データを用いたファジィクラスタリングに基づくハイブリッド識別法

山本薫, 佐藤美佳(筑波大学)

・母親向け質問回答サイトにおける共感を求める質問の抽出-機械学習を用いた分類モデルの構築-

羽鳥なの香(青山学院大学), 岩永二郎(エルデシュ/電気通信大学), 横山暁(青山学院大学)

・眼底写真の血管形態定量化処理に依る特徴量と健診データを用いた多角的解析

大坪周平, 福津佳苗, 齋藤理幸 (北海道大学), 中野義雄 (東京理科大学), 南弘征 (北海道大学), 水田正弘 (統計数理研究所)

・Huber 損失および L_1 ノルムに基づく欠損値に対して頑健な合成コントロール法の提案

山下璃久, 谷岡健資, 宿久洋 (同志社大学)

・結果変数を用いた最適輸送による未観測交絡に頑健な平均処置効果推定

三澤勇斗, 久保幸平, 宿久洋 (同志社大学)

一般セッション

座長: 土田潤 (京都女子大学)

・行列分解型 SEM における柔軟なモデリングとその計算アルゴリズム

山下直人 (関西大学)

・数量化と次元縮約を伴った Fuzzy c -平均法

山崎大輔, 飯塚誠也 (岡山大学), 森裕一, 黒田正博 (岡山理科大学)

・投票行動分析のための共変量を伴う教師ありトピックモデルの提案

光廣正基, 横井智広 (日経リサーチ), 星野崇宏 (慶應義塾大学/理化学研究所 AIP センター)

・長打傾向に基づく MLB 選手の打撃タイプ分類法に関する一考察

松本大輝, 近藤賢郎, 南弘征 (北海道大学)

・二次データへの meta-learner の適用による条件つき平均因果効果の推定・検定

丹亮人, 木田千裕, 町田親紀, 大鐘智香子, Ai Katayama, 千羽敏史 (MRI Research Associates)

日本分類学会学会賞およびフェローについて

会長 山本義郎

日本分類学会では, 学会賞として「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。また, 2016年度より「分類に関する研究の発展, 学会活動, 関連事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェロー授与制度を設置しています。

2025年度は次の方々を学会賞, フェローの称号を授与されました。

○日本分類学会 2025年度 学会賞・フェロー

2025年度の学会賞受賞者として, 貢献賞は水田正弘会員, 論文賞には浦崎航 学生会員, 桃崎智隆 会員, 富澤貞男 会員, 奨励賞には竹島大輝 学生会員が選ばれ, 2025年5月31日に開催された2025年度総会で授賞式が行われました。また, 同総会において, 金明哲 会員, 酒折文武 会員にフェローの称号が授与されました。

【貢献賞】

水田 正弘会員 (統計数理研究所)

主な理由

水田正弘氏は, 長年にわたり北海道大学において多変量解析, 特にグラフィックスや関数データ, 射影追跡法, ビッグデータ等多岐にわたる研究に従事してきた。これら理論的研究に加え放射線治療法の数理モデルといった応用面においても顕著な業績を挙げられている。また, 統計解析ソフトウェアにも造詣が深く, 関連する書籍も刊行されている。統計数理研究所へ異動後は, 大学統計教員育成センターに所属され若手研究者を統計教育の担い手として育成する研修活動にも積極的に取り組まれている。さらに, 統計関連の学会では多数の役職を歴任され, 日本分類学会においても評議員 (運営委員), 監事, ならびに編集委員会委員等として学会運営に多大な貢献をされてきた。これまでの学会に対する貢献及び研究活動は, 分類に関する研究の発展, 学会活動, 関連事業に多大な功績を挙げてこられた。よって, 貢献賞に推薦することにした。

【論文賞】

浦崎 航 学生会員

桃崎 智隆 会員

富澤 貞男 会員

主な選考理由

日本分類学会が関係している学会誌で, 近年研究内容が分類やデータ分析に関係した論文について内容や引用などを踏まえて選考した。選考された論文は, Urasaki, W., Nakagawa, T., Momozaki, T. et al. Generalized Cramér's coefficient via f -divergence for contingency tables. Adv Data Anal Classif 18, 893-910 (2024). <https://doi.org/10.1007/s11634-023-00560-8> である。本論文は, 二元配置分割表分析における行変数と列変数の連関の強さを定量的に表現する新しい方法として, パワー・ダイバージェンスよりも広いクラスを持つ f -ダイバージェンスに基づく尺度を提案したものである。 f -ダイバージェンスの条件を満たす関数を適用する尺度が, 分割表における関連の強さを測定するのに望ましい特性を持つことを証明しており, 従来の手法では得られなかった分割表における行変数と列変数間の関連の, より詳細な解釈を与えることができる。これらの貢献は高く評価される。

また, 本研究に関連する成果は, 日本分類学会シンポジウム (2021年) や日本行動計量学会第52回大会 (2024年) において発表されており, 研究論文は国際

誌 Sankhya B (第 86 巻, 2024 年) にも採択されている。

[奨励賞]

嶋田直也 会員 (株式会社ブレインパッド (賞選考対象の発表時: 大阪大学))

主な選考理由

嶋田直也氏は、日本分類学会第 42 回大会 (2023 年 5 月, 京都市) において「グループ LO ノルムを用いた変数選択を伴う行列分解因子分析」、日本分類学会第 41 回大会 (2022 年 6 月, 福岡市) において「群中心行列の零列数を直接制約した変数選択クラスタリング」と題した優れた発表をし、前者の発表では優秀学生発表賞を受賞されている。その他にも日独分類シンポジウムなどでの発表など積極的な研究活動を行っており、奨励賞候補として適切と考えられる。

[奨励賞]

竹島大輝 会員 (東京医科大学)

主な選考理由

竹島大輝氏は、2024 年度日本分類学会シンポジウム (2024 年 11 月, 名古屋市) において「量質混在データに対するグループ間の情報借用を伴う Multiple Group SEM について」という発表を行い、また 2023 年度日本分類学会大会 プログラム (2023 年 5 月, 京都市) において「データの階層構造を考慮した Bayesian Mixture SEM について」という発表を行っている。特に前者の発表においては、優秀学生発表賞を受賞しており、その研究内容は高く評価されている。同氏は、Multiple Group SEM が抱える三つの主要な課題を同時に解決する手法を提案するなど、意欲的かつ独創的な研究活動を展開しており、今後のさらなる発展が期待される若手研究者である。以上の点から、竹島氏は奨励賞の候補者として極めて適切であると考えられる。

[フェロー]

金明哲 会員 (京都先端科学大学総合研究所 特任教授)

授賞理由

金明哲氏は文字や記号に対する分類手法であるテキストアナリティクス分野の第一人者であり、これまでに優れた研究成果を挙げ、多数の優れた論文を発表してきた。また、論文に留まらずこの分野における多数の著書を著し、得られた知見の普及にも積極的に取り組まれており、分類学の発展に加えて広く社会への貢献も果たしている。日本分類学会においても編集委員会委員として学会活動に尽力されている。これまでの

学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、また今後共に活躍されることが大いに期待されるので、フェローの候補者として推薦することとした。

酒折文武 会員 (中央大学理工学部 准教授)

授賞理由

酒折文武氏はノンパラメトリック検定や潜在クラス分析等といった統計の数理的研究を出発点とし、近年ではスポーツデータ分析の分野においても精力的に活躍されている。さらに、公的機関における統計講習会の講師や統計検定の指定教科書の執筆、マスコミへの助言対応等、統計学の普及にも多大な貢献を果たしている。日本分類学会においては広報幹事、渉外幹事、評議員や優秀学生発表賞審査員を、また IFCS-2017 においては Director として国際的な活動にも貢献されている。これまでの学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、また今後共に活躍されることが大いに期待されるので、フェローの候補者として推薦することとした。

○学会賞受賞者より

『古きよき時代』を目指して

水田正弘 (統計数理研究所)

このたびは、日本分類学会貢献賞という名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。私は 1983 年の本学会発足時より入会させていただいております。1986 年 12 月に統計数理研究所で開催された第 3 回研究報告会で発表した折、会場に初代会長の林知己夫先生をはじめ、きらびやかな先生方が多数参集されていた光景を今も鮮明に記憶しております。

当時は、コンピュータで統計解析をする方法が活発に研究されていました (パソコン統計解析ハンドブック、S システム、NISAN システムなど多数)。また、1984 年には日本の学術組織を結んだ研究用のコンピュータネットワークである JUNET が始動し、インターネットの普及が開始されました。手元にパソコンがあり、ネットワークが利用可能となった環境は、まさに「宝の山」であります。昭和気風の厳しくも温かい先輩や同僚に恵まれ、あの『古きよき時代』において研究に従事できたことは、私にとって大きな幸いです。

林知己夫先生は、『未来を祭れ』(林知己夫著作集、勉誠出版) で、「楽しい思い出しかなく今が楽しくない人は不幸である。老年化の兆候である。… 現在も未

来から見れば『古きよき時代』になる可能性がある」と述べておられます。現代は、統計学、データサイエンス、データの科学において、1983年以上に激変期です。わが国では、データサイエンスとともに（と言うよりこちらが中心ですが）AIの爆発的な進展と普及の只中にあります。これは研究者にとって「宝の山」とあると同時に、一歩間違えれば「破滅」をもたらしかねない岐路でもあります。10年後、私たちは2026年を『古きよき時代』であったと懐古できるでしょうか。前述の林先生の言葉には、「いまだ手のついていないことは山程ある。宝の山に入って何をボヤボヤしているのかと言われても仕方あるまい」という続きがあります。微力ながら、今を『古きよき時代』にする努力を継続できたらいいなと思っています。



水田正弘(みづた まさひろ)

北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。北海道大学文学部助手、北海道大学工学部助教授、北海道大学情報基盤センター

一教授を経て、2022年から統計数理研究所大学統計教員育成センターに勤務。日本分類学会運営委員・幹事・監事、日本計算機統計学会会長、応用統計学会副会長、IASC Council Memberなどを歴任。日本分類学会フェロー、日本計算機統計学会フェロー。

日本分類学会論文賞を受賞して

浦崎 航 (東京理科大学)

この度は、日本分類学会論文賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。これまでにご指導ご鞭撻いただきました諸先生方、ならびに本論文の共同研究者であり、様々な形でご助言をくださった富澤貞男先生(明星大学)、中川智之先生(明星大学)、桃崎智隆先生(東京理科大学)に心から感謝申し上げます。また、本論文賞にご推薦いただいた先生、選考委員会の先生方をはじめ、学会員の皆様はこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

今回受賞の対象となった論文「Generalized Cramér's coefficient via f -divergence for contingency tables」は、私が東京理科大学創域理工学研究科在学時に取り組んだ研究であり、Advances in Data Analysis and Classificationに採録されたものです。本論文では、二元分割表における行変数・列変数

の連関性の強さを測る指標として、従来広く用いられてきたクラメール係数を f -divergenceに基づいて拡張する尺度を提案しました。分割表は医学・心理学・教育・社会科学など多くの分野で用いられますが、独立性の検定結果だけでは「どれくらい関連しているか」「別の表と比べて関連にどの程度の差異があるか」といった実務的な問いに十分答えられないことがあります。本研究目的は、解析者の関心に応じて選択できるdivergenceにより、独立からのずれを様々な観点から柔軟に定量化することでした。具体的には、クラメール係数を拡張として提案された f -divergence型尺度の値が0から1の範囲に収まり、0が独立、1が完全な連関構造を表す二元表に対応するなど、2変数間の関係の強さを定量化する上で重要な性質を満たすことを理論的に保証しました。さらに、一例として θ -divergenceを用いた数値実験により、クラメール係数やTomizawa et al. (2004)で提案されたdivergence型尺度とは異なる形の独立性からの逸脱を捉えられることを確認しました。加えて、二元分割表の背後に潜在的な連続分布を仮定した場合の本提案尺度との関係、特に二変量正規分布を仮定した際の相関係数との結び付けを通じて、尺度の値の解釈を補強しています。

本論文の執筆にあたり、本研究における諸々が初めての経験であったこともあり、採択に至るまで共同研究者および諸先生方から多くのご指導を賜りました。改めて、深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、連関度を含む様々な「測り方」をより実データに即した形で整備し、解析現場で役立つ手法として発展させていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく申し上げます。



浦崎航(うらさき わたる)

2021年東京理科大学 理工学部情報科学科卒業、同年4月東京理科大学大学院 理工学研究科 情報科学専攻修士課程入学、2023年東京理科大学大学院 理工学研究科 情報科学専攻修士課程修了、同年4月東京理科大学大学院 創域理工学研究科 情報計算科学専攻博士後期課程入学、現在、同大学院博士後期課程在学中

日本分類学会奨励賞を受賞して

竹島大輝(株式会社日立製作所)

この度は日本分類学会奨励賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。奨励賞にご推薦いただきました先生方、選考委員会の先生方、そして日頃よりご

指導いただいております共同研究者の皆様に心より御礼申し上げます。受賞対象となりました「量質混在データに対するグループ間の情報借用を伴う Multiple Group SEM について」は、同志社大学の宿久洋教授、京都女子大学の土田潤講師とともに取り組んだ研究成果です。本研究の背景には、近年の組織開発における大規模な従業員サーベイの重要性があります。企業内には年代や部署といった複数のグループが存在し、それらの中で構成概念の関係性を比較することは、自社の強みや弱みを相対的に把握し、組織を活性化させる上で不可欠です。しかし、ワーク・エンゲイジメント（WE）等の測定に関する従来の研究の多くは、企業の従業員全体を対象にしたものが主流でした。本研究では、単一企業内の複数グループ間比較に焦点を当て、実務上の課題解決を目指しました。具体的には、既存手法を修正・拡張し、量質混在の質問紙調査データに対してグループ間で情報を借用し、分析を行う「Multiple Group SEM」の手法を提案いたしました。また、本研究の遂行にあたりましては、貴重な実データをご提供いただきました一般企業の皆様のご協力が欠かせませんでした。この場を借りて深く感謝申し上げます。現在はシステムエンジニアとして一般企業に勤務しており、将来的にプロジェクトマネージャー（PM）を目指す中で、研究生活を通じて培った「複雑な事象を構造化し、データに基づいて客観的に判断する姿勢」が、実務においても大きな糧となっていることを実感しております。宿久先生、土田先生をはじめ、日本分類学会に関わる先生方には、在学中のみならず現在も多大なるご教示を賜っております。今回の受賞を大きな励みとし、研究で得た知見を実社会の課題解決に還元するとともに、一実務家の立場からも「データの科学としての分類とそのデータ分析」に関する分野の発展に貢献できるよう、より一層精進を重ねていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。



竹島大輝（たけしま ひろき）
2023 年同志社大学大学院文化情報学部研究科博士前期課程課程入学。2025 年 3 月同大学院修了。同年 4 月株式会社日立製作所入社。

学会議事録等

日本分類学会 2025 年度総会 議事録

開催日時：2025 年 5 月 31 日（土）、16:20-17:30

会場：函館市地域交流まちづくりセンター2F 多目的ホールならびに Zoom を用いたオンラインによる並行開催

■議長の選出

議長として、眞田英毅氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第 44 回大会について

中山厚穂大会実行委員長より、2025 年 5 月 31 日および 6 月 1 日に函館市地域交流まちづくりセンターおよびオンラインで並行開催される日本分類学会第 44 回大会の開催状況について、報告がなされた。

2. 2025 年度シンポジウムについて

横山暁 2025 年度シンポジウム実行委員長より、2025 年度シンポジウムを、40 周年記念シンポジウムを兼ねて、2025 年 12 月 13 日（土）～12 月 14 日（日）に青山学院大学青山キャンパス（東京都渋谷区）にてオンラインとの併用で開催を予定している旨、報告がなされた。

3. 2025 年度データ分析セミナーについて

豊田企画幹事の代理として阿部庶務幹事より、2025 年 8 月末に法政大学新一口坂校舎（東京都市ヶ谷）にて、法政大学大学院イノベーションマネジメント総合研究所との共催でデータ分析セミナーを開催する予定である旨、報告がなされた。

4. 2025 年度統計関連学会連合大会について

山本会長より、2025 年度統計関連学会連合大会について、2025 年 9 月 7 日から 11 日にかけて、関西大学千里山キャンパス（大阪府吹田市）にて開催される旨、報告がなされた。

5. 和文誌について

大津編集委員会委員長より、和文誌第 14 巻第 1 号の編集状況および発行予定について報告がなされた。また、第 15 巻第 1 号は「社会と文化をとらえるデータ分析の新展開」というテーマの特集案を検討している旨、報告がなされた。

6. 広報活動について

土田広報幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

7. 学会賞について

林篤裕学会賞選考委員会委員長の代理として阿部庶務幹事より、学会賞選考委員会により 2025 年度学会賞の受賞者が選出されたこと、およびその受賞者について報告がなされた。

8. 2026 年度の大会（第 45 回大会）について

山本会長より、2026 年度の大会は、山本大会実行委員長の下、2026 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）に高知県立県民文化ホール（高知県高知市）にて開催予定である旨、報告がなされた。

9. 他学会への後援について

山本会長より、国際ベイズ分析学会 2026 年世界大会実行委員会より 2025 年 5 月 19 日付で後援依頼があり、会長として承諾した旨、報告がなされた。

10. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 2024 年度事業報告・会計報告について

阿部庶務幹事より、2024 年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2024 年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

2. 2024 年度監査報告について

水田監事より、以下の通り監査を実施した旨、報告がなされた。

・5 月 12 日（月）に今泉監事および水田監事参加のもと監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた。

・5 月 26 日（月）に実施された日本分類学会 2025-26 年度第 3 回評議員会にて 5 月 12 日（月）に実施した監査について報告がなされたが、出席評議員より、本会の主たる役職者と監事の兼務について利益相反の問題があることについて監査報告書に追記することが提案され、検討の結果、該当する事項について再度監査を評議員会から監事に依頼し、その結果を監査報告書に反映し、総会までに評議員会（ネット）を開催して審議することが確認された。

・同日の 5 月 26 日（月）に再監査を実施し、その結果を反映した監査報告書について評議員会（ネット）にて審議した結果、承認された。

上記の監査報告を受け、事業報告・会計報告について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

3. 2025 年度事業計画および予算案について

阿部庶務幹事より、2025 年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。

山田会計幹事より、2025 年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. フェロー候補者について

林篤裕学会賞選考委員会委員長の代理として阿部庶務幹事より、学会賞選考委員会により金明哲氏および酒折文武氏がフェロー候補者として推薦された旨、説明がなされた。以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

5. 名誉会員新設について

山本会長より、名誉会員の新設案およびそれに伴う会則等の変更案について説明がなされた。以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

6. その他

山本会長より、評議員会から推薦があり、本人の承諾を得た名誉会員候補者について説明がなされた。以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。（所属、学年、職位、会員種別は選考対象となった研究業績の公開または発表時のもの）

[貢献賞] 水田正弘 会員（統計数理研究所大学統計教員育成センター 特任教授）

[論文賞] 浦崎 航 学生会員（東京理科大学大学院創域理工学研究科情報計算科学専攻 博士 2 年）

桃崎智隆 会員（東京理科大学創域理工学部情報計算科学科 助教）

富澤貞男 会員（明星大学データサイエンス学環 教授、東京理科大学創域理工学部情報計算科学科教授）

[奨励賞] 竹島大輝 学生会員 (同志社大学大学院文化情報学研究科 修士2年 (現株式会社日立製作所))

[フェロー称号]

金 明哲 会員 (京都先端科学大学総合研究所 特任教授)

酒折文武 会員 (中央大学理工学部 准教授)

○評議員会議事録

日本分類学会 2025-26年度 第1回評議員会 議事録

開催日時：2025年3月11日(火), 12:00-12:20

会場：Zoom によるオンラインでの開催

出席者 (敬称略, 会長以外は五十音順) :

山本 義郎 (会長, 東海大学), 足立浩平 (京都女子大学), 阿部寛康 (和歌山県立医科大学), 石岡文生 (岡山大学), 今泉忠 (多摩大学), 大津起夫 (大学入試センター), 岡太彬訓 (多摩大学), 狩野裕 (同志社大学), 久保田貴文 (多摩大学), 酒折文武 (中央大学), 佐藤美佳 (筑波大学), 竹内光悦 (実践女子大学), 谷岡健資 (同志社大学), 土田潤 (京都女子大学), 寺田吉壺 (大阪大学), 富田誠 (横浜市立大学), 中山厚穂 (東京都立大学), 林篤裕 (名古屋工業大学), 林 邦好 (京都女子大学), 宿久洋 (同志社大学), 山本倫生 (大阪大学), 横山暁 (青山学院大学)
栗原考次 (監事, 京都女子大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名 (評議員現在数の過半数) に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 役員選挙結果について

石岡評議員 (2023-24 年度庶務幹事) より, 2025-26 年度選挙結果について報告がなされた。

・2月21日に選挙管理委員 (清水信夫会員・今田一希会員) による開票が行われた。

・山本義郎会長, 栗原考次監事, 水田正弘監事が信任多数で当選した。

・下記の21名の方が評議員に当選した。

足立浩平, 阿部寛康, 石岡文生, 今泉忠, 大津起夫, 岡太彬訓, 狩野裕, 久保田貴文, 酒折文武, 佐藤美佳, 竹内光悦, 谷岡健資, 土田潤, 寺田吉壺, 富田誠, 中山厚穂, 林篤裕, 林邦好, 宿久洋, 山本倫生, 横山暁

なお, 評議員定数は 20 名であるが, 同数得票者がいたため 21 名となっている。

2. その他

栗原監事より, 日独分類シンポジウムの Post-Proceedings 出版に関する進捗報告について, 報告の依頼があった。

・今泉評議員より, 第5, 6, 7回日独分類シンポジウムについて, 必要な原稿はすでに Springer 社の担当者に提出済みであり, 現在は相手側の返答を待っている状況であることが報告された。

・中山評議員より, 第8回日独分類シンポジウムについて, 日本側の投稿状況およびゲストエディターに関する説明がなされ, 現在ドイツ側に情報を伝達しており, 返答を待っている状況であることが報告された。

以上を踏まえ, 改めてドイツ側に確認の連絡を行うこととなった。

横山評議員 (2025 年度日本分類学会シンポジウム実行委員長) より, 2025 年度のシンポジウム (40 周年記念シンポジウム) を 2025 年 12 月 13 日~14 日に青山学院大学青山キャンパスで開催することが報告された。

◆審議事項

1. 幹事長の選出について

山本会長より, 2025-26 年度幹事長として, 中山厚穂評議員が推薦され, 審議の結果, 原案の通り承認された。

2. 統計関連学会連合理事について

山本会長より, 統計関連学会連合に選出する 2 名の理事について, 慣例に倣い会長および幹事長をもって充てることが提案され, 審議の結果, 原案の通り承認された。

3. 幹事について

山本会長より, 新年度から幹事会が速やかに活動できるよう, 新幹事の承認はメール審議で行い, また, 新幹事の選出は幹事長に一任することが提案され, 審議の結果, 原案の通り承認された。

4. その他

山本会長より, 現在編集委員会の副委員長を務めているが, 会長就任に伴い, 副委員長職を引き続き兼務することの是非について意見が求められた。議論の結果, 業務の遂行のしやすさ等を考慮して, 編集委員会の委

員長・副委員長で検討することとなった。

・日本分類学会 2025-26 年度 第 2 回評議員会 (ネット) 議事録

日時：2025 年 4 月 15 日 (火) ～ 25 日 (金) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第 6 条に基づき承認された。

1. 2025-2026 年度の幹事の選出について

[幹事長] 中山厚穂 (東京都立大学)

[庶務] 阿部寛康 (和歌山県立医科大学), 石岡文生 (岡山大学), 船山貴光 (西武文理大学)

[会計] 竹内光悦 (実践女子大学), 小田牧子 (防衛医科大学校), 山田実俊 (東海大学)

[広報] 土田 潤 (京都女子大学), 山下直人 (関西大学)

[企画] 豊田裕貴 (法政大学), 林 邦好 (京都女子大学), 鶴見裕之 (横浜国立大学)

[渉外] 佐藤美佳 (筑波大学), 酒折文武 (中央大学), 富田 誠 (横浜市立大学)

[渉外 (国際学会活動)] 久保田貴文 (多摩大学), 寺田吉老 (大阪大学)

[ジャーナル] 大津起夫 (大学入試センター), 横山 暁 (青山学院大学)

[IFCS Council] 宿久 洋 (同志社大学), 山本義郎 (東海大学)

(評議員 21 名のうち回答者数 20 名。回答者数 20 名のうち、賛成者数 20 名)

・日本分類学会 2025-26 年度 第 3 回評議員会 議事録

開催日時：2025 年 5 月 26 日 (月), 13:00-14:10

会 場 : zoom によるオンラインでの開催

出席者 (敬称略, 会長, 監事以外は五十音順) :

山本義郎 (会長, 東海大学), 阿部寛康 (和歌山県立医科大学), 石岡文生 (岡山大学), 今泉忠 (多摩大学), 大津起夫 (大学入試センター), 岡太彬訓 (多摩大学), 久保田貴文 (多摩大学), 酒折文武 (中央大学), 佐藤美佳 (筑波大学), 谷岡健資 (同志社大学), 中山厚穂 (東京都立大学), 林篤裕 (名古屋工業大学), 宿久洋 (同志社大学), 山本倫生 (大阪大学), 横山暁 (青山

学院大学)

栗原考次 (監事, 京都女子大学), 水田正弘 (監事, 統計数理研究所)

委任状提出 :

足立浩平 (京都女子大学), 狩野裕 (同志社大学), 竹内光悦 (実践女子大学), 土田潤 (京都女子大学), 寺田吉老 (大阪大学), 富田誠 (横浜市立大学), 林邦好 (京都女子大学)

陪席 (2025-26 年度幹事) :

小田牧子 (防衛医科大学校), 山田実俊 (東海大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名 (評議員現在数の過半数) に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 第 44 回大会について

中山第 44 回大会実行委員長より, 日本分類学会第 44 回大会について, 2025 年 5 月 31 日 (土) ～6 月 1 日 (日) に函館市地域交流まちづくりセンター (北海道函館市) にて開催される旨, 報告がなされた。

2. 2025 年度シンポジウムについて

横山 2025 年度シンポジウム実行委員長より, 2025 年度シンポジウムを, 40 周年記念シンポジウムを兼ねて, 2025 年 12 月 13 日 (土) ～12 月 14 日 (日) に青山学院大学青山キャンパス (東京都渋谷区) にてオンラインとの併用で開催を予定している旨, 報告がなされた。

3. 2025 年度データ分析セミナーについて

豊田企画幹事の代読として阿部庶務幹事より, 2025 年 8 月末に法政大学新一口坂校舎 (東京都市ヶ谷) にて, 法政大学大学院イノベーションマネジメント総合研究所との共催でデータ分析セミナーを開催する予定である旨, 報告がなされた。

4. 2025 年度統計関連学会連合大会について

山本会長より, 2025 年度統計関連学会連合大会について, 2025 年 9 月 7 日から 11 日にかけて, 関西大学千里山キャンパス (大阪府吹田市) にて開催される旨, 報告がなされた。

5. 和文誌について

大津編集委員会委員長より、和文誌第 14 巻第 1 号の編集状況および発行予定について報告がなされた。また、第 15 巻第 1 号は「社会と文化をとらえるデータ分析の新展開」というテーマの特集案を検討している旨、報告がなされた。

6. 広報活動について

土田広報幹事の代読として阿部庶務幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

7. 第 5, 6, 7 回目独分類シンポジウムおよび Post-Proceedings 出版について今泉編集担当より、第 5, 6, 7 回目独分類シンポジウムの Post-Proceedings について、現在の編集状況について報告がなされた。また、出版予定が 2025 年 12 月である旨、報告がなされた。

8. 第 8 回目独分類シンポジウムの Post-Proceedings 出版について

中山編集担当より、第 8 回目独分類シンポジウムの Post-Proceedings 出版について、Geyer-Schulz 氏からのゲストエディターの推薦依頼に対し返答した後、先方と連絡が取れない状況である旨、報告がなされ、今後の対応について確認がなされた。

9. 他学会への後援について

山本会長より、国際ベイズ分析学会 2026 年世界大会実行委員会より 2025 年 5 月 19 日付で後援依頼があり、会長として承諾した旨、報告がなされた。

10. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

阿部庶務幹事より、前回評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、1 名の正会員および 4 名の学生会員の入会、2 名の正会員の退会について、原案の通り承認された。併せて、9 名の種別変更者があった旨、報告された。

2. 2024 年度事業報告について

阿部庶務幹事より、2024 年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

3. 2024 年度会計報告について

小田会計幹事より、2024 年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

4. 2024 年度監査報告について

今泉監事、水田監事より、5 月 12 日に監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。出席評議員より、本会の主たる役職者と監事の兼務について利益相反の問題があることについて監査報告書に追記することが提案された。検討の結果、該当する事項について再度監査を監事に依頼し、その結果を監査報告書に反映し、総会までに評議員会（ネット）を開催して審議することが確認された。

5. 2025 年度事業計画案について

阿部庶務幹事より、2025 年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

6. 2025 年度予算案について

小田会計幹事より、2025 年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

7. 2026 年度の大会（第 45 回大会）について

山本会長より、2026 年度の大会は、2026 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）に高知県立県民文化ホール（高知県高知市）にて開催予定である旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

8. 学会賞について

林篤裕学会賞選考委員会委員長より、2025 年度学会賞について下記の通り選考された旨、説明がなされた。なお、所属、学年、職位、会員種別は選考対象となった研究業績の公開または発表時のものである。

【貢献賞】水田正弘 会員（統計数理研究所大学統計教員育成センター 特任教授）

【論文賞】浦崎 航 学生会員（東京理科大学大学院創域理工学研究科情報計算科学専攻 博士 2 年）

桃崎智隆 会員（東京理科大学創域理工学部

情報計算科学科 助教)

富澤貞男 会員(明星大学データサイエンス学環 教授, 東京理科大学創域理工学部情報計算科学科教授)

[奨励賞] 竹島大輝 学生会員 (同志社大学大学院文化情報学研究科 修士 2 年 (現株式会社日立製作所))

審議の結果, 原案の通り承認された.

9. フェロー候補者について

林篤裕学会賞選考委員会委員長より,
2025 年度フェロー称号について,

金 明哲 会員(京都先端科学大学総合研究所 特任教授)

酒折文武 会員 (中央大学理工学部 准教授)

の 2 名が選出された旨, 説明がなされた. 審議の結果,
原案の通り承認され, 総会に上程することとなった.

10. 名誉会員の候補者について

山本会長より, 評議員会から名誉会員に推薦する候補者について説明がなされた. 審議の結果, 原案の通り承認され, 総会に上程することとなった.

11. 第 44 回総会の次第について

阿部庶務幹事より, 日本分類学会 2025 年度総会の議事について説明がなされた. 審議の結果, 承認された.

12. その他

その他の審議事項なし.

日本分類学会 2025-26 年度 第 4 回評議員会 (ネット) 議事録

日時: 2025 年 5 月 28 日 (水) ~ 30 日 (金) (メールによる審議)

◆審議事項

1. 2024 年度監査報告について

日本分類学会 2025-26 年度第 3 回評議員会にて指摘のあった本会の主たる役職者と監事の兼務について利益相反の問題があることについて, 評議員会から再度監査を実施することが依頼され, 5/26 (月) に再監査を実施し, その結果を反映した監査報告書について審議した結果, 承認された.

(評議員 21 名のうち回答者数 18 名. 回答者数 18 名のうち, 賛成者数 18 名)

単位:円

科目	予算額	決算	増減	備考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	6,000	△ 4,000	2,000 円 × 3人(正会員3人)
2 会費収入	959,000	1,016,000	57,000	納入率71%
正会員	625,000	600,000	△ 25,000	5,000 円 × 120人(納入率:69%)
シニア会員	12,000	12,000	0	3,000 円 × 4人(納入率:80%)
学生会員	42,000	54,000	12,000	2,000 円 × 27人(納入率:77%)
賛助会員	200,000	200,000	0	50,000 円 × 4口(納入率:100%)
前年度以前分	80,000	140,000	60,000	2023年度実績は87,000円
前受金	0	10,000	10,000	
3 論文誌関係収入	160,000	0	△ 160,000	
論文集売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	160,000	0	△ 160,000	広告なし
別刷代金	0	0	0	
論文誌関係雑収入	0	0	0	
4 雑収入	100,000	292,592	192,592	
セミナー参加費	100,000	0	△ 100,000	2024年度内の開催はなし
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	292,579	292,579	第43回大会事務局、2024年度シンポジウム事務局寄附
利子収入	0	13	13	銀行口座利子
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙費用のため繰入
A 当期収入合計	1,254,000	1,339,592	85,592	
B 前期繰越収支差額	4,324,537	4,324,537	0	
C 収入合計(A+B)	5,578,537	5,664,129	85,592	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	572,000	464,821	107,179	
和文誌	500,000	442,821	57,179	Vol.13, 送料含む
別刷代金	0	0	0	
論文誌関係雑支出	50,000	0	50,000	
J-Stage登録作業費	22,000	22,000	0	5000円(税別) × 4件
その他	0	0	0	
2 事業費	425,000	462,756	△ 37,756	
大会・シンポジウム運営補助費	300,000	300,000	0	第43回大会、2023年度シンポジウムの補助
セミナー運営補助費	0	0	0	
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞・フェロー経費	40,000	36,372	3,628	学会賞表彰状経費、フェロー認定経費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	40,000	84,394	△ 44,394	会員全体への郵送4回分
新入会員特典	40,000	41,990	△ 1,990	11名利用
その他	0	0	0	
3 学会運営会費	6,000	543	5,457	
幹事会・評議員会・総会等運営費	5,000	0	5,000	
その他	1,000	543	457	監査の際の飲料代
4 事務費	230,315	340,284	△ 109,969	
業務委託費	150,165	150,165	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	10,000	130,565	△ 120,565	3種類封筒代(1種 × 500部, 2種 × 1,000部)
ウェブ運営管理費	3,500	3,289	211	ドメイン維持費
会報印刷費	50,000	54,615	△ 4,615	会報No.43
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	1,650	1,650	0	トークン費用
5 通信・郵送費	70,000	80,927	△ 10,927	
会報等送料	25,000	37,680	△ 12,680	会報No.43
会費請求等連絡通信費	30,000	24,908	5,092	会費請求に関する書類等の送付
その他	15,000	18,339	△ 3,339	学会賞・フェローなどの書類郵送費等
6 負担金	90,977	91,142	△ 165	
IFCS	70,812	70,977	△ 165	2023年度内に支払えなかった年会費の支払い
統計関連学会連合	20,165	20,165	0	2024年分(振込手数料を含む)
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	0	0	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,445,292	1,490,473	△ 45,181	
E 当期収支差額(A-D)	△ 191,292	△ 150,881	△ 40,411	
F 次期繰越収支差額(C-E)	4,133,245	4,173,656	△ 40,411	
G 支出合計(D+F)	5,578,537	5,664,129	△ 85,592	

日本分類学会会則第10条に基づき、2024年4月1日より2025年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2025年5月12日

監事

今泉 忠

印

監事

水田 正弘

印

(実際の決算報告書には自筆の署名と押印あり)

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減 (25-24)	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	1,203,000	959,000	244,000	
正会員	700,000	625,000	75,000	5,000 円×(178人×0.80+140人)として算出
シニア会員	15,000	12,000	3,000	3,000 円×(7人×0.80+5 人)として算出
学生会員	38,000	42,000	△ 4,000	2,000 円×(24人×0.80+19人)として算出
賛助会員	350,000	200,000	150,000	50,000 円×7口として算出
前年度以前分	100,000	80,000	20,000	2024年度実績は130,000円
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	30,000	160,000	△ 130,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	30,000	160,000	△ 130,000	論文誌 Vol.14 の広告収入、実績より算出。
別刷代金	0	0	0	Vol.14、著者負担分を出版社直接請求に変更
論文誌関係雑収入	0	0	0	Vol.14、著者負担分を出版社直接請求に変更
4 雑収入	100,200	100,000	200	
セミナー参加費	100,000	100,000	0	法政M共催セミナー(2件)
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	200	0	200	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS年会費のため
A 当期収入合計	1,368,200	1,254,000	114,200	
B 前期繰越収支差額	4,173,656	4,324,537	△ 150,881	
C 収 入 合 計 (A+B)	5,541,856	5,578,537	△ 36,681	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	472,000	572,000	△ 100,000	
和文誌	450,000	500,000	△ 50,000	Vol.14 送料を含む。
別刷代金	0	0	0	Vol.14、著者負担分を出版社直接請求に変更
論文誌関係雑支出	0	50,000	△ 50,000	Vol.14、著者負担分を出版社直接請求に変更
J-Stage登録作業費	22,000	22,000	0	Vol.14、1論文あたり5000円(税込)
その他	0	0	0	
2 専業費	435,000	425,000	10,000	
大会・シンポジウム運営補助費	300,000	300,000	0	2025年度大会とシンポジウムの補助
セミナー運営補助費	50,000	0	50,000	講師謝礼、交通費・資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	40,000	40,000	0	表彰状・フェロー認定状経費、大会参加費、優秀学生発表賞
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	0	40,000	△ 40,000	今年度実施計画なし
新入会員特典	40,000	40,000	0	学生会員8人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	6,000	6,000	0	
幹事会・評議員会・総会等運営費	5,000	5,000	0	前年度実績より算出
その他	1,000	1,000	0	前年予算残額
4 事務費	229,490	230,315	△ 825	
業務委託費	150,165	150,165	0	統計情報研究開発センターへの事務系業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	10,000	10,000	0	実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	ドメイン維持費、実績より算出
会報印刷費	50,000	50,000	0	会報 No.44
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	825	1,650	△ 825	ゆうちょう口座のトークン費用
5 通信・郵送費	70,000	70,000	0	
会報等送料	25,000	25,000	0	会報 No.44
会費請求等連絡通信費	30,000	30,000	0	会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	15,000	0	大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	90,165	90,977	△ 812	
IFCS	70,000	70,812	△ 812	前年度支払い額を参考、2025-2026年度分、US \$400
統計関連学会連合	20,165	20,165	0	2025年度分、振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	0	25,000	選挙のための積立
IFCS負担金のための積立	0	25,000	△ 25,000	IFCSの年会費のための積立
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,353,656	1,445,292	△ 91,637	
E 当期収支差額 (A-D)	14,544	△ 191,292	205,837	
F 次期繰越収支差額 (C-E)	4,188,201	4,133,245	54,956	
G 支 出 合 計 (D+F)	5,541,856	5,578,537	△ 36,681	

事務局から

●学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)

ドイツ分類学会 (German Classification Society) およびイタリア分類学会 (Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております (年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

●会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九 (ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

●ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。

承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報だけのコミュニケーションだけでなく大会やシンポジウムにて、皆様と現地でお会いできることを楽しみにしております。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュース等でも情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事：土田潤 (京都女子大学)、山下直人 (関西大学)

広報委員：谷岡健資 (同志社大学)、横山暁 (青山学院大学)、山田実俊 (東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>